平 成 ２４年 ９ 月

[配布先：全組合員]

市 場 情 報

日　時　　平成２４年９月１４日 （金） １２時～１４時１５分
場　所　　大阪鉄鋼会館２号室
出席数　　酒 匂 委員長他　１６名（最終頁参照）
経　過

1. 酒匂委員長挨拶

小さな変化も見逃さず機敏に対応しよう

我々シャー業をめぐる状況は一段と厳しさを増してきている。これまで堅調に推移してきた建産機部門に急ブレーキがかかっている。欧州と中国経済の低迷長期化が主因となっている。向け先や取引先によっては機種間の温度差はまだ残るが、とりわけ「鉱山機械」の生産調整は、先々期待していた機種だけに、関係シャーの受ける衝撃は大きく、当面の対応に苦慮している。外需依存度の高い需要部門の宿命で、為替や海外要因の変動に好不調が左右されやすい。逆に言えば、今の混迷がいつまでも続くはずがない。だからこそ内外情勢の変化の兆しを見逃すことなく、これまで以上に的確に捉え機敏に対応することが大事である。建設分野においては一部地域に若干明るさが窺えるようになった。製造業も必ずや好転する日が来ることを信じて、皆さん、これからも一緒に頑張ってまいりましょう。

２．各地区の需要動向

北海道

６月以降鉄骨物件動き出す

例年だと秋の気配が色濃く漂う時期となったが、今年はロンドン五輪の余韻なのか８月下旬から記録的な猛暑続き。９ 月になっても夏日あるいは真夏日の連続と、北海道の気候とは思えない

厳しい残暑の候になっている。

この猛暑により山麓では、餌となる夏草が枯れ木の実などの生育にも影響を及ぼしている模様で、それを好んで食べるヒグマが餌不足のためか、いつになく市街地まで出没しており、目撃情報は例年の二倍以上に上っている。

地域経済については、好天に恵まれ農作物は順調に豊作となり、農家は明るい収穫期を迎えている。

一方海外からの観光客も回帰傾向を見せるなど、一部の業種で明るさが見え始めたようだ。

しかしながら、全体的には、相変わらずの政治混乱や財政難から各種予算の捻出が難しい様子で、内需喚起による経済復興策は遅れ気味となっており、回復への足取は極めて鈍く脆弱な状況を余儀なくされている。

【鉄骨】建築着工統計による 2012 年 1～７月の鉄骨重量の推計累計は 71,600 ㌧（前年 70,000 ㌧）で、対前年度比 2.4%の増加となった。

また、需要の先行指標となる 1～8 月の北海道機械工業会鉄骨部会道央支部の共同積算数量は、合計 97,943 ㌧で前年実績（同 73,211 ㌧）に比べ 33.8%上回ったが、平年比では 75%どころの水準となっている。

首都圏を中心とした本州の大型鉄骨物件への対応。加えて、道内でも 6 月ごろから倉庫や店舗など中小案件も動き出し、大手ファブは年末まで、中小ファブも 10～11 月まで手持ち工事が満杯状態という。

その後については、ゼネコン筋が発注を遅らせている模様なので、秋口から年末以降の物件情報は道央圏を除き固まっていない。ただ、年後半には目玉 3 物件（三井ＪＰビル・北海道新幹線函館車両基地・札幌競馬場）が相次いで着工、または工事の本格化で高いレベルでの稼動が見込めそうだ。

鉄骨単価は現在のところ、枯渇時の受注が多くを占めているため、利益無き繁忙を強いられている。地域別にみるとマチマチの状況で、道央圏や函館地区は秋口以降も中・大型物件が見込まれている。Ｈ・Ｍグレードの大半は、年内における仕事が固まったようで、底値感が広がり値戻し基調になってきた。しかし、十勝・道東・道北地区については、「仕事量は確保できているが、指値は相変わらず厳しい」「稼働率はＭＡＸ状態。見積の引き合いは多いものの、単価がついてこない」「工場はフル稼働であり、１１月過ぎまで埋まっているが、受注単価はなかなか上がってこない」などと、報告されている。全ての地区での受注単価の健全化が、今後の大きな課題である。

【橋梁】端境期対策であるゼロ国債・補正予算による発注は、予想に反しものの見事に期待はずれに終わった。今年度の国と道や各市町村の発注は開始されたが、大型案件は少なく、全体で10,000ﾄﾝ（前年度約24,000ﾄﾝ）を割り込むのではないかと憂慮されている。

需要環境が非常に厳しいことから、老朽化の進んだ橋梁の延命・耐震対策や補修・補強を目的とした落橋防止装置や伸縮継ぎ手の補修、鋼製床版工事など、メンテナンス関連工事の早期発注が待たれる。（北海道開発局では2012年秋までに、長大橋29橋を含めた62橋の耐震設計が完了させるとしており、これらがその後の発注対象となる。）

【切板】道内切板の需要構造は、建築や土木・橋梁が中心である。今年は橋梁が大幅に減少する見込みである。鉄骨は首都圏を中心とした大型鉄骨物件への対応や、6 月から地元の物販店や物流施設、農業関連施設の加工に伴い、各社の稼働率は、ほぼフル稼働を維持できるようになった。

秋口から来年上期に向け、引き続き、目玉3物件の建設工事のスタート。ホームセンターや、震災後のリスク分散に伴う倉庫や工場の移転新築、農業関連施設の加工の本格化などにより高稼働が維持できる公算が強い。

切板価格の現状は、ゼネコン筋の低価格落札の影響によって、起用ファブへの単価シワ寄せ。必然的に切板に対しての指値も厳しいわけだが、市場に底値感も広がりつつあり、注文量も実際に増加している。このためフル操業を背景に安値は、確実に切り上がってきている。

鉄骨需要は、今年度後半から大型物件が相次いで着工される見通しから、久方振りに平常年に回復することが期待されている。環境の好転により、「適正価格での販売」、「採算確保」の２大要諦の実現に向け、もうひと踏ん張りと言える。

（玉造・西村　孝治）

東　北

土木関連を除き需要低調

【建築関連】～震災復興需要動向～

被災3県の沿岸地区は護岸復旧、道路整備、ＪＲ線の復旧、などにより鋼矢板・鋼管杭の需要が高い。

生コン・アスファルト化合物・骨材など需給逼迫気味で価格も上昇傾向が続いている。

それに伴い鉄筋工・型枠工の足りない状況は慢性的となっている。

また被災地区の代替住宅の建築も一部自治体で活発化し、大工工・資材不足も発生している。

敷鉄板は年初より月間数千トン単位で出荷継続中である。

冷凍・冷蔵・製氷倉庫、水産物加工場の建築も増加している。

～市場概況～

・震災復興関連の建築案件は冷凍倉庫関係など出件数は多いものの、いずれも鉄骨量 100～300ｔ規模で、Ｍグレードクラスの多忙な状況は続いているが、切板数量は数トン～でシヤ各社とも稼動確保に至らない。

・今後の東北地区プロジェクトとして仙台合同庁舎 7000ｔ、仙台駅東口再開発 11500ｔ、秋田県大曲地区再開発 5000ｔ、仙台地下鉄東西線駅舎関連など予定されているものの、加工本格化は来年度。

・全体として各社とも稼働率、生産量ともに 50%～70%と苦慮。

【橋梁関連】

・各県橋梁、発注遅れ　復興関連予算との兼合いか。

・沿岸地区の水門・補修を含めた橋梁の発注は再来年ともいわれ、その影響で他県の発注も滞り気味。

・橋梁ＦＡＢ、早期発注に自治体へ懇願しているとも聞く。

・総じてシャー各社の稼働率は低く、年度内は大きな物件の動きも期待出来ない状況下、足元の仕事を日々拾っていく状態が続く。

（ＪＦＥ 鋼材東北・大柴宏和）

東　京

建産機の受注状況が一変

前回（６月）報告は海外シフト及び海外調達、いわゆる空洞化について危機感の実態を報告しました。その後も変化のスピードは速く、欧州・中国等の景気減速により輸出の悪化や内需の落込みも顕著になってきています。これまでまずまずの生産を維持できていた部門でさえ大幅な生

産調整局面となってきており、極めつけは鉱山機械の減産と言えるでしょう。比較的堅調であった建産機系シャーの受注状況は一変しつつあります。

【建設機械】　６月の統計では前年比３０ヶ月振りの減少、７月では２ヶ月振りの増加となった。一進一退の感はあるが、昨年の３Ｑ比では数字は減少しており、堅調さを持続してきた建機部門も世界の景気減速の影響をまともに受け、変調を来していると言える。

・油圧ショベル　　国内は前年比ではプラスの販売となっているが、１１年度下期比でみると需要減であり、また輸出向けも中国他での販売不振による生産調整で、実状は減産状態と言える。期待していた復興需要も本格化には程遠く、暫く状況は好転しないようである。ミニショベルも含めると建機の中で最大ウエイトの機種だけに、関係シャーへの影響は大きく、早期の回復に期待したい。

・建設用クレーン　　ラフテレーンクレーンの生産は堅調さを持続している。　しかしながら国内向けは排ガス規制前の駆込み需要の要素が強く、足元フル生産の状態ではあるが年明けからの反動減が懸念される。また輸出の引合いにも陰りが見え始め、前述の内需落ち込みを考慮すると、先行きが不安視される。

クローラクレーンは相変わらず低迷が続いている。輸出の引合いはあるもののこの円高で成約に至らないケースが多く、回復までに暫く時間がかかりそうな雲行き。

【鉱山機械】　鉱山機械を取り巻く環境が急変している。中国の需要減やシェールガスへの切替えにより鉄鉱石や燃料炭等の価格が下落した結果、減産に動く鉱山が増えている。特にインドネシアで影響が大きく､新鉱業法の関係もあり開発計画が見直されているようである。その結果鉱山機械は超大型ショベルを除き６月頃から急速に販売が落ち込んでいる模様。この部門は長期の活況を予定していただけに、急激な生産の下方修正に関係シャーは困惑している。

【重　　電】　米国向け原発案件の３基目を加工中で暫く高操業が続いている。米国ではエネルギーのシェールガス代替による原発への依存低下の影響で、残念ながら先行きの案件は見えていない。　代わって日本の技術を生かした火力発電案件に今後は期待できそうである。米国及び国内原発に見通しが立ちにくい現状では、新興国の火力発電の新設計画受注に望みを託したい。　問題はこの部門も海外調達の動きが顕著で、ユーザーの受注がシャーの加工に直結しないケースが目立っている事であろう。

昇降機は下期の数量が増える業界だけに、これからの加工量に期待できそう。通年でもほ

ぼ前年並みの量は確保できる見込みである。

【板金・鍛圧機械】　鍛圧業界の受注動向資料をみると、「レベルは弱い状況」である。自動車関連向けのプレス機を除き、中国・欧州向け等の不振の影響により全般に落ち込んでいて、なかでも小型プレス・ﾊﾟﾝﾁﾝｸﾞは受注の減少が著しい。建産機系シャーの加工量は在庫調整により２～３割落ち込んでいる模様で、下期も回復の見込みは薄いと予想されている。またユーザー各社の海外展開も活発で、輸出機械は徐々に国内生産からの移管が進む計画であり、ダブルパンチでの影響が懸念される。

【フォークリフト】　需要家の生産体制再編の動きがみられるほど長期低迷が続いており、１１年度は最近における年間でのピーク（０８年）比６５％の生産レベルであった。さらに、リーマンショック前の瞬間ピーク時からみると５５％前後まで落ちており、増産対応後の長期に亘る受注減に関係シャーは苦悩している。今年度の生産予定は横ばい乃至微減の計画ではあったが、現状の販売不振からみると実際には計画を下回ると予想される。

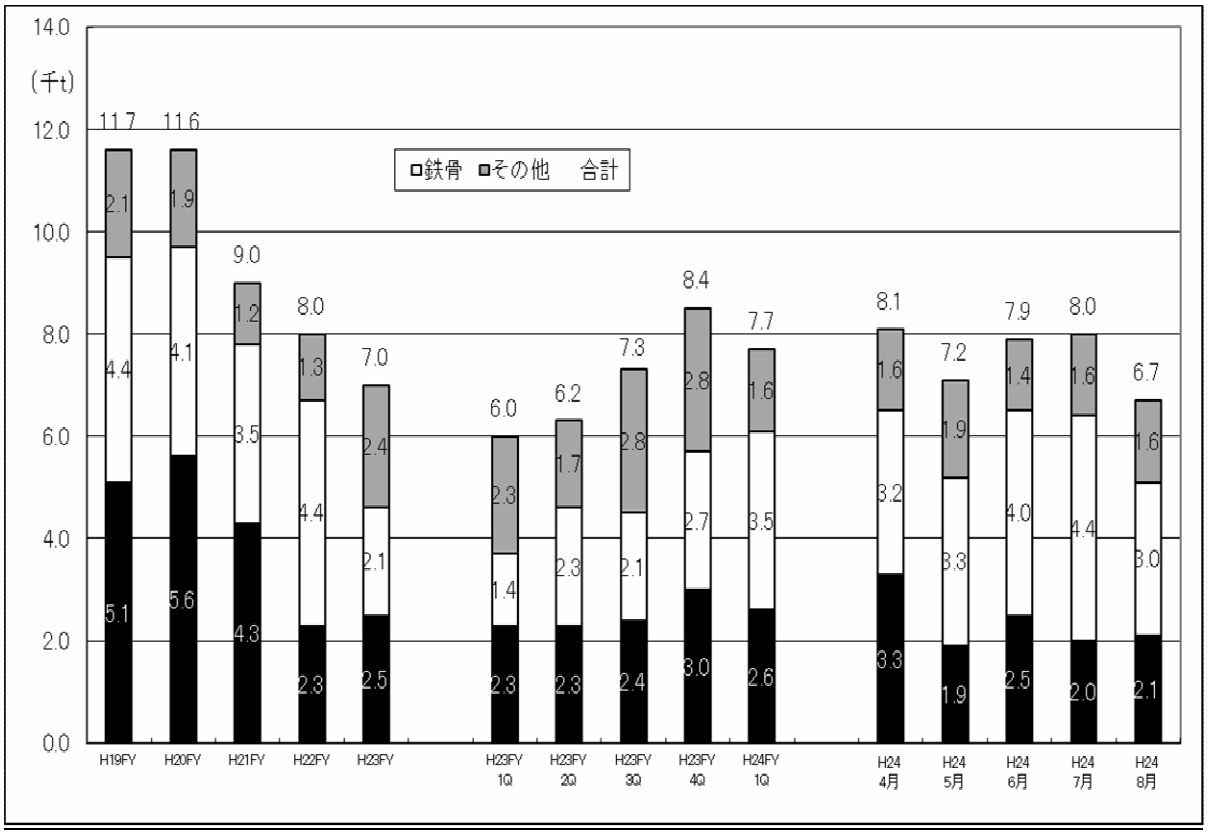
【産機　店売り】　一過性の受注増減はあるものの、ならすと量、単価とも依然として低迷したままである。末端実需がさえない現状をみると、回復にはまだまだ時間を要すると見られる。しかしながら、一部には復興需要とみられる加工も出ている情報もあり、また建築関係の受注回復現象や形鋼市況の反転の動き等に望みを託し、底ばいからの脱出を祈りたい。

（ニューエイジ・池田啓志）

東　京

３Ｑ建材需要は端境期

１．規格建材部会加工量推移（千ﾄﾝ/月）



２．これまでの実績

全体　新年度に入り、主力の建材分野は、橋梁の開札が引き続き低調であるが、鉄骨については首都圏大型案件（オフィスビル、物流倉庫等）の着工継続により、シヤ全体加工量は８千ｔ/月レベルを維持。

（但し、８月は夏季休暇や明細ズレ等の個別要因あることから加工数量は一時的に減少。）

橋梁　昨年度下期に集中した開札案件のファブ加工開始にともない、昨年度 4/四期に引き続き、年度初頭はシヤ加工量も増基調で推移したが、新年度案件の開札が低調であることから、 2/四期以降の加工量は、低位にて推移。

鉄骨　首都圏を中心とした大型案件の着工は、引き続き継続しており、昨年度 4/四期以降の

増基調継続。

当地区のシヤ加工量も合わせて増加。

３．今後の動向

全体　鉄骨分野の基調に大きな変化はないが、耐震設計への見直しによる一部物件の遅れや橋梁分野での開札遅れにより、秋口にかけて全体加工量は、若干減少し端境期となる可能性あり。

但し、鉄骨分野での遅れ解消、また少ないながらも年度後半に集中する見込みである橋梁開札により、シヤ加工量も徐々に回復する予定。

橋梁　本年度橋梁開札量は、現時点で約３０千ｔと当初予定を大きく下回る状況。（参考１）国交省案件中心に”下期開札中心”との可能性もあり、ファブ及びシヤの確定山積み案件が少ない状況。

早期開札量増加に期待。

鉄骨　首都圏大型案件の着工継続との基調に大きな変化無し。（参考２）但し、一部案件について、耐震設計への見直し等により、実着工が遅れている物件も散見され、3/四期については端境期になる可能性あり。

参考1〈全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H24FY
橋梁入札量	417	324	305	283	96	171	267	22	78	100	44	106	150	250

参考2〈全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H24FY
鉄骨需要量	642	589	391	418	224	207	431	22	78	230	107	100	207	437

（富士鉄鋼センター・三浦潔司）

東　京

浦安地区は相変わらず閑散

浦安地区の一般店売りシャーの状況は、需要面で以前に比べ多少上向いているものもあるが、全体的な荷動きは相変わらず閑散としている。引合いは小ロット・短納期物件が中心である。また今年に入り、輸入材の入着が増加しており、１～７月計で約３０万トン（前年比+２９％）で、

うち韓国材が２６万㌧（同+５７％）、中国材が２万㌧（同▲５３％）と、全体の８７％を韓国材が占めている。そのうち５割以上が西に入っており、中国材の大半は敷板に使われている模様。母材価格が２極化し、採算割れの事態もあり、仕入れが非常に難しくなっている。足元の店売りマーケットは厳しい状況が続く。

（三ノ橋鋼材・角田善彦）

東　京

長いトンネルの中でじっと辛抱

中小建築建材シヤー等の話をします。

この秋口以降 2 年間位の間は、超大型再開発物件が目白押しと言われています。
大手町、日本橋、室町、京橋、呉服橋、エリアで 5 万トン～数万トンクラスの物件が少なくとも 10 数棟～20 棟、また、大崎、渋谷、品川、池袋等でも大掛かりな再開発が計画されています。 一部では解体工事も進んでおり、今後順次地下部工事に入り、年末辺りから本格的な建方が始まると言われています。この大きな流れが起きる期待が高まっている訳です。しかし、我々中小シヤーがこれらの工事に直接タッチするケースは殆ど無く、あってもほんの一握りでしか有り得ない所です。普段からお付き合いしているHクラス、Mクラスのファブでの仕事は、この大きな波の到来から少し遅れて、中くらい以下の波、若しくはさざ波として来るもので、その流れがきちんと起きて、早く本格的な建築需要期が活性化する事を切望するところであります。需要量の回復により、稼働率UP、価格UPと早く適正な環境で一息着かせて貰いたいものです。

関東でも稼働率は地域によりマダラ模様となっている様子で、浦安近辺ではその日暮らしも散見される中、概ね60％前後の稼動となっています。また、忙しいとされている北関東地区でも仕事量は途切れないが、小ロット、短納期、安値要求（絶対的仕事量が少ないため買い叩かれる）と言う環境は変わっておらず、一杯一杯の操業となっているとの事です。

現状を言えば、建築需要が低迷していた長いトンネルの先にやっと出口らしい明かりが見えてきた様に言われています。しかし足元では相変わらずの低操業となっており、今年に入っての最悪期と言ってもいい位ひどい状況です。今後一般建築需要と災害復興需要が、どの時期にどれだけの量が出てくるのかも分らないが、兎に角もうひと辛抱であることに変わりがある訳では無い。

（丸東興業・秦弘志）

新　潟

踏ん張りどころ

連日の猛暑の影響で、各地で水不足のニュースが報じられておりますが、新潟地区におきましては、冬に例年以上の降雪量があったことから、水不足の心配はさほど無いものの、仕事の上では、この先の受注量に不安を抱えております。

当地区の状況ですが、建築ＦＡＢに関しては、北陸新幹線の駅舎や車両基地、スーパーなどの商業施設や、学校の体育館など、地場の物件も若干動いており、また、関東物件などの受注も平行し入っていることから、比較的受注量は確保できている様子です。

本来、新潟県のシャー業者は、建築関連の切板比率が高く、ＦＡＢの受注量が増えれば、加工量も増加するのですが、シャー業各社は、短納期品や小ロットの物に追われ、一部では残業も余儀なくされているものの、稼働率や加工重量はまったく上がっておりません。

鉄骨単価によるＦＡＢ各社の受注量調整や、県外業者の参入、切板の薄物化、工期が短くなっていることで、ロール納期が間に合わない為に社外に発注せざるを得ないなど、厳しい状況が続いております。

それに加え、一般店売りはというと、海外シフトや部品の海外調達が進み、更に落ち込んだ状態となっている為に、各社受注量の確保に奮闘しております。

電炉メーカーの値上げや、下期には高炉メーカーの統合、下期後半から発注予定の関東再開発案件などがあることにより、全体的には値上げ基調となる様子であるものの、新潟地区の需要面から見た場合には、まだまだ値上げ環境には無く、非常に難しい状況となることが予想されます。

しかし、ここは踏ん張りどころであり、足元を見られることなく、加工量の確保と、適正加工賃がとれる交渉をしっかりと行い、この環境を乗り越えたいと思います。

（藤田金属・多村嘉人）

東　海

建機や造船に陰り

中部地区の６月～8 月の産建機向け店売りシャーの動向は、基本的には前回の「5 月の連休明けから仕事がなくなってしまった。」というのが続いています。

お盆前に、一時的に仕事の出たところもありましたが、忙しいところは稀で、お盆休み等も、例年より長く取るところもありました。

自動車の金型等は、一部の会社には出ていましたが、全体的には少なく、液晶テレビ用等のプラスチック金型は、めっきり無くなってしまいました。

その中でも、一部の土木関係の切板や、足元は好調な自動車生産に関っている、工場のクレーンの桁の切板等の仕事が、多く出ているところもありました。

又、この夏に自動車の海外ラインの設備の見積もりが出て、秋口から、仕事が増えるというところもありました。

ただ､現状は多くの店売りシャーは仕事が少なく､値段も良くない方へと引っ張られています。

一方、ヒモ付きシャーは好調部門に陰りが見えてきました。

建機　リフト

前回報告したとおり、9 月までは生産のピークが続いていくが、早いところで 10 月、遅いところでも 11 月から生産調整が行われ、現在のピーク生産から 1～2 割落ちそうです。

リフトは名古屋近辺の会社が多く関っているのと、震災以降、一時的には落ちましたが、直ぐに持ち直し高い生産を続けてきたので、今回の生産数量の低下により、今後の動向が注目されます。

クレーン　シャベル

輸出用の中型クレーンは、中国向けも含め相変わらず良くありませんが、東北復興向けの、中小型の杭打ち機や破砕機、先端につけるマグネット等は、前回と変わらず好調です。

トラック

10ｔクラスのトラックは前回報告したとおり、年内は好調を維持出来ると思いますが、来年になると海外移管の話が具体化すると思われます。

一方、好調を維持してきた鉱山用の超大型ダンプは、8 月より生産が落ち始めており、ユーザーの中には、既に雇用調整金をもらっているところもあると聞きます。

需要不足で、石炭や鉄鉱石等が値下がりして、掘っても採算が合わなくなり、それに使用する鉱山用の建機や、ゴミ処理のトラック等が不要になってきていると聞いています。

これから、どの位生産が落ちるか解かりませんが、建機の生産を引っ張ってきただけに、生産ダウンは大きな打撃となりそうです。

鉄道車両

相変わらず低位安定で、北米向けや台湾向けを製作しています。

産機　鍛圧

4～6 月は低生産でしたが、7～9 月はそこそこの生産計画が出てきました。

前回報告したように、好調な自動車生産に伴い、国内の古い、プレスを海外に送り、国内向けの新品買い替えが 7～9 月の需要を生んでいます。

ただ、下期は国内の自動車生産が落ちて行きそうなのと、円高もあり国内需要が一巡すると、なかなか新品を海外に輸出するのが難しいので、この状態が続くとは思えません。

その他工作機械

ベンダー、シャーリング、パンチング等は前回よりは落ち着きましたが、まだまだ出ていますし、好調な自動車生産に伴い、海外へ持って行くバンドソーやノコ盤も相変わらず好調です。

専用機

IT 専用機は、前回 7～9 月で 4 割の生産減と報告しましたが、売れ行きが悪く、国内では多くの在庫を抱えてしまい、生産も海外にシフトをしたため、4 割どころかほとんど国内生産が無くなってしまいました。

又、ソーラーパネルを製造する専用機も中国や韓国の専用機に押されて、ジリ貧状態になってしまいました。

造船　デッキクレーン

前回の報告では、7 月以降 2 年間で 3 割ダウンといいましたが実際には半減してしまい、その切板を製作していた社員を他の部署に持って行き、仕事の多能化をしなくてはならなくなってきました。

盆休みも当初の計画より長くとらなくてはいけないぐらい急激に仕事が減ってきました。

昇降機

生産の台数は変わっていないが、計画が後ろ倒しになってきて、本来出るものがなかなか出てこなくて、前回より仕事量が少なくなりました。

又、海外に生産が流れているので、生産台数が変わらなくても、以前より確実に小ロット化しています。

ヒモ付きシャーは、大型建機と造船の落ち込みが響いてきています。
又、今後リフトも少しずつ減るので、今まで好調だった分、ダメージも大きくなると思われます。
店売りシャーは、前回同様悪いですが、まだ好調だったヒモ付きシャーが確実に仕事が減ることにより、前回以上に悪くなった感じです。

（鈴将鋼材・鈴木康司）

東　海

秋口以降に期待するが未だ実感なし

建材関係は免震耐震関連工事が一段落し、中小物件、かつ短納期中心で相変わらず売上実績が上がっていない。足元ますます物件が入りにくくなっている状況で、シャーの稼働は平均８０％前後である。スプライス加工や穴明けは多忙であり、厚板はメイン部材に使われていないのではないか。少ロットに加え、品質証明書発行コストや輸送コスト等が増加し、生産性が趨勢的に悪化している状況である。一次加工賃ももらいづらくなっている。シャー在庫は３カ月程度。ファブの山積みは５～６カ月程度。秋口以降回復期待はあるが、目下のところ実感は全くない。来年以降は大型案件が相次いで動くと見込まれているが、地場にどのくらいの量が落ちるかは不透明。

（中部鋼鈑・南　信年）

大　阪

好材料欠き需要低迷

１．全般

（１）需要

相変わらず全体的に仕事は少ない。

建機も調整局面になり、生産ペースダウン。

中小建築向けの短納期小ロット切板は出ているが、数量的にはたいしたことはない。

（２）一般店売

とにかく少ない仕事のなか、手持ち２、３日の仕事で回している。

４月頃より、見積りや引合いが出てきているとの声もあり、下期は期待している。

２．需要部門別

（１）橋梁

関西の橋梁 FAB の入札での受注量は少ない。FAB の工場操業が維持できない。

（能力 1000t/月に対して、加工量 200～300t 程度）

春先に FAB が受注した NEXCO 案件などが、秋から材料手配を開始し、年末に向けて若干仕事が出てきそう。但し、今の手持ちでは需要は一過性に過ぎず、下期は継続的な入札受注と材料手配が期待される。

（２）鉄骨

関西大型案件は、新ダイビル（鋼材２万 t）のみ。材料手配が開始されて、１０月後半から切断が開始される。工期は長い（１年以上）。

日生東館（鋼材 10 万 t）は、関西 FAB でなく、山口県のヤマネがまるごと１社で受注した。通常そういったことはなかったが、単価安を武器にゼネコンへ営業している。

その他では、物流倉庫、病院、ショッピングセンターなどが計画されている。

物件数はそれなりにあり、Ｈクラスは当面工程は埋まっている。但し、切板（ＰＬ）の割合が少ない。

大型案件がなく、Ｓクラスの仕事は少ない。（影響、駒井ハルテック大阪工場の閉鎖など）単価面も厳しい。FAB がゼンコンより受注する価格が非常に厳しく、そのままシヤリング業加工賃の値下げ要求になっている。

単価面は厳しいが、首都圏・名古屋駅前の案件を関西 FAB で加工することを期待している。

（３）建機

明らかな調整局面に入り、二次協力会社などのシヤ会社には仕事が出てこなくなった。

（４）産機

産機・SPOT などは、相変わらず少ない。小ロット・短納期。

（日鉄神鋼シャーリング・浅野博之）

（玉造・棚橋浩司）

九　州

部品の海外調達が加速

産機・・・　九州地区・・・１２年４～６月と比べて、７～９月は設備投資も少なく、加工量は落ちております。

中でも厚板の加工が減り、中板の加工は増加しており　短納期，小ロットが目立っております。

レーザー、又プラズマ切断は、小径穴、ピアス等は元々、ユーザーにて加工していたが、今では殆どがシャーの仕事になっている為　残業、昼夜交代にて納期を守っている状況です。切板価格も下降ぎみにあり、今後価格の持ち直しには期待できない。

前回も報告させて頂きましたが、グローバル調達も加速してきており、一搬製缶品も海外よりの調達が増加してきております。

又、海外との価格競争で受注できない案件もでてきており、逆に九州の一搬加工業者が海外からの受注も検討しているようです。

油圧シリンダー関係につきましては大きな変動はなく、現在は３０年周期の底にある。４Ｑの情報はありませんが、１０～１２月については　＋５％程度と聞いております。

湾岸機械等では、４～６月に比べて７～９月は若干増加し、１０～１２月についても増加傾向にはあるものの、他の部所の受注が少なく、内作加工になる可能性が大きく、協力企業には入らないようです。

又、既存の外注品は、春ごろより海外調達が始まり、ここにきて品質は月追うごとに上がってきているようです。今後も、海外調達は増加していくと思われる。

建機・・・・　＊＊小型建機は、今年度下期は２７％増の生産計画を出しており、**海外での生産予定も、2012年に比べると、2015年には14倍近くになるもようです、**

前々回の市場委員会にて報告させて頂きましたが、部品の一部は欧州から韓国へ購入を変えることで、５０％のコストダウン。又、他の部品については、インドから購入し、またこれも３７％ダウン・・・と。

今後は、国内の価格ではなく　海外価格との比較をしていくと。

海外調達金額も前年度に比べると今年度は３８％増となる見込みです。

＊＊大型建機関係の協力企業によると、１０～１２月につきましては若干減産、また、海外の工場も７～９月より操業が６０％と、また、１２年７月より　サポート部品の一部が海外より入荷されている。
今後、９～１２月から１～３月にかけての回復の情報は入っておりません。

（門倉剪断工業・白水正幸）

九　州

足元総じて低調、下期以降に期待

・７月の九州北部豪雨による被害は大きいものであったが、１日も早い復旧が待たれる所である。「激甚災害指定」となり、建設業界は復旧事業に期待をよせるが、景気を刺激するほどのものとはならない。
・セーフティーネットに代表される金融支援策により九州全体の倒産件数は抑制されているものの、９月に入り中小ゼネコンの倒産が数件発生し鉄鋼業界にも影響が出ている。

＜建築＞

・比較的大型案件（病院案件がメイン）があった昨年と比べ、今年は中小案件が中心となっているが、各ファブともまずまずの稼動状況である。
ただ、中小案件が主体であるためトン数・売上は上がらない。
鹿児島では大型の病院案件が発注され、来年ではあるが多忙となってくる。

＜土木＞

上期の九州地区の橋梁案件での目立った案件は少なく、低調なすべり出しで、各ファブとも下期に期待している所である。
但し、足元海洋構造物（ジャケット・堤防等）で忙しいファブもある。
公共工事の７～８月動向は４～６月を上回る出件が行われた。４月～８月累計では対前年比＋９．６％ではあるが、平成１９年～２１年の平均と比べると△１９％のレベルに留まっている。

＜産業機械＞

液晶関連は不調であるが自動車関連は堅調である。ダイハツは軽自動車「ミライース」向けエンジンを増産（21.6⇒32.4 万基）する設備投資を行う。自動車向け搬送設備等も好調である。

建機メーカーは欧州向けは不調であるが、国内向けは好調とのこと。下期には新機種投入で若干増加する見込み。

＜造船＞

温度差はあるものの造船各社のピッチダウンが本格化し出しており、鋼材使用量・加工量に影響が出ている。造船会社は外注していた加工物を社内に取り込むため、外注先の仕事が無くなってくる。今後の新規受注の見通しは立てにくく、当面厳しい状況が続くと思われる。

・溶断業者

８/２２、シャーリング工業組合　九州支部の報告（出席：１５社）

・工場稼働

７０～７９	%	３社
８０～８９	%	４
９０以上	%	８
合計		１５社

・小口・短納期対応で各社忙しいが、開先・穴明けも多く、加工重量はなかなか増えていかない。

（豊鋼材工業・橋本勝美）

３．髙木理事長の感想

本日の報告を窺って、シャーを取り巻く需要環境は、建産機分野の状況急変などいろいろなことが起こり、全体観として益々冴えない大変な状況になっていることを痛感した。こうした厳しい時こそ我々は足元をしっかり見据えて、着実に、堅実に、前を向いてやっていくしかないのではないかと思う。

昨年９月の本会で、当面の課題の一つとして、「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の普及活動方針についてお話させていただいた。その後適宜関係先に対し啓蒙活動を実施してきたが、先般本ガイドラインの普及状況と課題を把握するために、組合員各社にアンケート調査を実施した。その結果、「ガイドラインの基本思想に則った普及運用を図りたいが、個社での対応には限界があり、組合として業界（ファブ・ゼネコン・設計会社）へのアピール・働きかけを行ってほしいという多くの意見をいただいた。これらのご意見も参考にしながら、組合として本ガイドラインの正しい運用普及を推進するための活動を開始したいと考えている。具体的な活動内容は、①ガイドライン運用のための組合対応方針の作成、普及のための課題検討及び説明会等

の資料検討、②ガイドラインの組合員の組合員説明会の開催（ガイドラインの基本思想・考え方、組合対応方針を主とする説明会の各支部開催。）、③ファブ（鉄建協、全構協）との運用普及に向けた共同検討（統一運用化のための課題・問題検討と、ゼネコン・設計会社へのアピール方法検討）、④シャー・ファブ共同によるゼネコン・設計会社等への申し入れ・アピール等に取り組む予定である。この活動方針・内容は、１０月度理事会に諮り、機関決定を得たのち、速やかに品質保証分科会を再編成し、キックオフすることとしたい。組合員各社のご理解とご協力を切にお願いしたい。

（参考） ≡ 出席者 ≡ （順不同敬称略）

委員長・	酒匂 （京浜産業）
ゲスト・	髙木（理事長/富士鉄鋼センター）
東　北・	笹田 （ＪＦＥ鋼材）
東　京・	池田 （ニューエイジ）、
	角田 （三ノ橋鋼材）
	三浦（富士鉄鋼センター）
	秦 （丸東興業）
新　潟	多村（藤田金属）
東　海・	鈴木 （鈴将鋼材）
	南 （中部鋼鈑）
大　阪・	浅野 （日鉄神鋼シャーリング ）
	棚橋 （㈱玉造）
	松井（日鐵神鋼シャーリング／ゲスト）
九　州・	白水 （門倉剪断工業）
	橋本 （豊鋼材工業）
事務局・	柘野

４．次回の開催日時・場所

第１５５回市場委員会

平成２４年１２月７日（金）１１時３０分 ～

於　名古屋キャッスルプラザＢ１「佐久良」

以 上